

じゃこづれ
蛇子連

(石浜)

むかし、山仕事を終えて帰ろうとした村の若

い衆三人が、石浜村の豆搗川上流の山の中を

歩いていきますと、近くから大きないびきが聞こ

えてきました。

「こんなところで、だれか昼寝でもしとるのか

な。」

不審に思つて、若い衆たちが注意深くあたりを

うかがいますと、すぐ前の山道に長々と伸びた

大きな蛇が、気持ちよさそうに眠っていました。

そばには、何匹かの子供の蛇も、とぐろを巻いたり、寝そべったりして、同じように眠っているではありませんか。

そこは、根っからのいたずら盛りの若い衆です。あちこちからいくつかの藁つぼけを運んで

きて、蛇を囲んですえつけると、一気に火をつけたからたまりません。たちまち燃え上がる炎

の中で、親子の蛇は、鎌首もたげてのたうちまわって苦しんだあげく、ついに炎の中に消えて

しまいました。

「おもしろかったなあや」



「うん、やっとかめに気がはれたがや。」

と、互いに興奮してしゃべりながらも、さすが

に気味悪くなった三人の若者は、火を消してあ

わててその場を立ち去ろうとしますと、急に

寒気を感じて、がたがた震えはじめました。そ

れでも、やっとの思いで家に帰ると、三人とも

そのまま熱を出して寝こんでしまいました。そ

して、二、三日の間に、三人のうちの二人まで

が死んでしまったということです。

そんなことがあってから、蛇が焼け死んだあ

たりの地名を「蛇子連」と呼ぶようになったと

いうことです。

【メモ】 国語辞典を引くと、「じゃくずれ

蛇崩―崖などの崩れた所」という言葉がある。

ジャクズレがジャコズレと訛り、誰かが

蛇子連という漢字を当てた。この漢字を眺めて

いた或る人が連想した話と思われる。